

歴史・人類学研究科

	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
学生の確保 (人)	1年次	-	-	-	-	-	-	-	-
		※ (-)	※ (-)	※ (-)	※ (-)	※ (-)	※ (-)	※ (-)	※ (-)
3年次 編入学		-	-	-	-	-	-	-	-
		※ (若干)	※ (5)	※ (3)	※ (5)	※ (3)	※ (5)	※ (2)	※ (2)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	10 (10)		2 (3)		2 (3)		- (2)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	24 (35)			16 (27)			1 (1)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	- (1)	- (-)	- (-)	1 (-)	1 (2)			
	退学者	3 (1)	- (-)	2 (1)	1 (2)	5 (3)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 歴史・人類学研究科の活動

本研究科の特色は、「新しい知の価値創造」であり、それを実現するための「個別学問領域の深化と充実した学際プロジェクト教育研究による学習」である。

(1) 教育目標：歴史・人類学研究科は、人間の思想文化・言語文化・歴史文化部門のうち、主に歴史文化の存在のあり様を根源的に研究する部門として位置づけられている。本研究科では、細分化された既存のアカデミズムの学問部門やセクト主義を超えるべく、大きく時間と空間に対応する歴史学と文化人類学が統括されている。そして、単なる現象的な比較や総合や学際ではなく、歴史学と文化人類学における基礎的な専門領域の深化を軸にして、それらの応用的な関連領域への展望を切り開きうる研究者の養成を目的としている。

そのために、本研究科には、基軸にあたる史学専攻と文化人類学専攻の2専攻が数種の専門領域を包含して置かれており、いずれの専攻も、多様な地域を場とする民衆の生活的視点を重視していることが特徴的である。

(2) 教育課程の見直し：上記の基本方針をふまえて、人事配置と教育課程の充実をはかってきた。本年度も改革委員会を継続し、2専攻6分野体制が検討された。

史学専攻では民衆心性を媒介とした社会関係のとらえ方や文化認識を重視した授業科目が必要であり、文化人類学専攻では、環境、境界、共生、循環などの現代的課題に着目して、従来の共同体観、所有観、世界観などを再検討しうる授業科目が必要であると提言された。また、多様な生活情報の管理に関する教育研究が、社会的ニーズに応えるだけでなく新たな学問部門をうみだすことが提言された。

(3) 教育研究指導・教育方法の改善：科目履修にあたっては各専門領域を超えて広い視野に立つ学問を築くために、異なる専攻・分野の単位を取得することを勧めている。また、近代の認識水準を超える新しい学問的動向への対応と文書関係施設の高度な情報管理の時代的要請への対応から、各専門領域の基礎と応用の科目編成を検討し、共通科目の見直しを図っている。とくに、5年一貫制のもとで課程修了者の増加を図るための支援策を練り、学位論文の水準を設定し、学位論文の作成・審査の標準化を図り、研究指導體制や学位論文作成スケジュールを再確認した。

(4) 社会との連携：平成15年度の科目等履修生として1名1科目を受入れた。過去の入試問題の請求に応じる体制を整備し、IT委員会を編成して本研究科のHPを充実させた。さらに、委託研究生制度や院生指導において他研究機関との協力を進めている。

2 教員の教育業績評価の状況

歴史・人類学研究科では、教員各自による授業効果等についての自己点検評価が基本にすえられているが、教員の教育業績は、(1)研究科運営への貢献、(2)担当授業科目単位数、(3)課程修了者数、などを目安として評価されている。平成15年度における課程修了者は2名、日本学術振興会特別研究員採択者（継続を含む）は4名、教育研究機関への就職者は4名である。

3 自己評価と課題

(1) 課程博士の実績を高めるために、審査体制の充実と学位論文作成指導の強化に取り組んでおり、人文社会系の研究科の中では、高水準を達成している。将来的には、その実績をより一層高める努力が必要である。

(2) 研究科教員の年齢構成と職格構成は、教育研究レベルを高めつつ世代交代が進むように配慮してきた。平成15年度も世代交代を視野に入れた教育研究体制の再編が順調におこなわれた。

(3) 平成15年度には本研究科のHPを大幅に更新し、対外的アピール度を高める作業をおこなった。